共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

連合会総会報告

■発行：グリーンコープ
生活協同組合連合会理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL092（481）7923
FAX092（481）7876
https://www.greencoop.or.jp/

裏面に委員会報告を
掲載しています。

2020.7.3
グリーンコープ
生活協同組合連合会
第二十八期
通常総会

グリーンコープらしい
自信を持ってお届けできる商品をつくり
その良さを伝え、利用を広げました

2020年7月3日、グリーンコープ生活協同組合連合会の第二十八期通常総会が開催されました。共同体定時社員総会と同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、書面議決を中心とした総会になりました。すべての議題について賛成多数で可決承認されました。

2019年度の活動報告と2020年度の活動方針(要旨)などについて報告します。

第一号議案
2019年度活動報告承認の件

商品の開発・改善を行いました

遺伝子組み換えの可能性のある原料をできるだけ使用しない商品の開発を行っています。また、遺伝子組み換え不分別の原料を使用している商品は、できる限り遺伝子組み換えでない原料へ切り替える努力をしています。

商品の包材については、環境への影響を意識しました。新たに開発したシャンプー・リンスは専用ボトルをつくらずに詰替用のみとするなど、プラスチックの削減をすすめています。

特別企画・雑貨商品については、これまで以上にグリーンコープが自信を持っておすすめできる商品の選定に努めました。また、翌々週配達になっている雑貨類についても、翌週配達商品を増やしました。

「商品の確かさを確認する活動」を組合員が実施しました

2019年度は326人の組合員が、延べ69ヵ所の商品の製造工場を訪問しました。組合員が直接製造現場を確認し、生産方法や現場の努力、苦労を知り、商品の確かさを共有しました。商品の良さと確かさを実感して広く伝えたことで、利用を伸ばすことができました。

商品の良さを伝えて利用拡大を展開しました

ホワイトソフトマーガリン、いくら醤油漬、不知火ぽん酢の3商品について、利用拡大展開として、お試し価格（大特価）で企画しました。各生協で良さや市販品との違いをしっかりと伝えたことで、3点ともこれまでにない多くの利用があり、その商品を初めて利用した組合員もたくさんいました。利用して商品の良さと美味しさを実感してもらうことで、その後の利用につながる取り組みになりました。

LINEの注文システムや「グリーンコープアプリ」を開発しスマートフォンで利用しやすい環境を整えました

LINEでの注文システムを導入することで、いつでもどこでも、カタログが手元になくても「お気に入り」や「注文検索」から注文できるようにしました。これを機に、GCwebを利用して注文する組合員が3万人を超えました。

さらにグリーンコープの公式アプリを開発することで、知りたい情報がすぐに分かり、注文もできるようになりました。今後さらに、組合員のグリーンコープへの満足度アップと、利用拡大につながるよう努めていきます。

商品の正確な情報案内ができていませんでした

商品の原料変更に伴うカタログの案内変更ができていなかったこと、変更した案内が不正確だったことがありました。また、長期間企画していなかった商品の企画再開の際に原料の確認をしていなかったために、間違ったカタログ案内になっていたことがありました。

今後は、原料の確認とカタログでの正確な案内を確実に行っていきます。

青果物の産直青果の品質改善と欠配を減らす努力をしました

青果物の流通温度の設定を20℃から10～15℃へ引き下げ、保冷剤も追加することで、低い温度を保ったままお届けするようにしました。各物流センターでも施設の改修をするなどして、品温管理が徹底できるようになりました。

これまで以上に無農薬・減農薬栽培品を増やしていけるよう努めました。環境ホルモンの疑いがあるネオニコチノイド系農薬の排除については生産者と共同ですすめています。排除を実現した産地の実践を学ぶなどして、生産者間でも調査・研究に取り組んでいます。

また、夏場の葉物、夏秋の果物などについて、欠配が多い時期を中心に、作付面積の拡大や新産地を増やすなどして、欠配を減らす努力をしています。

2020年度活動方針決定の件

一. グリーンコープの主人公である組合員がグリーンコープ運動を展開し、仲間を増やし、利用を高めます。

二. 生命（いのち）を守り育むグリーンコープの食べものを食べて、私たちの安心・安全な食べものを守り、より良く育てていきます。

三. 「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」を重要なグリーンコープの組合員活動とし、メーカー・生産者との交流によって、商品管理の強化と商品の利用拡大をすすめていきます。

四. グリーンコープ商品を見直し、改善と開発をすすめていきます。

五. 組合員の伸びに呼応する生産や製造の実態を再構築し、組合員、メーカー・生産者、ワーカーズ（労働協同組合）、職員とともに利用の拡大をすすめていきます。

六. グリーンコープらしいこだわりある特別企画商品（雑貨）を増やしていきます。

七. グリーンコープ連合会と単協の経営を一層強化します。

八. 四つの共生の願いに基づく取り組みをすすめます。

九. 各委員会方針

(一)商品検討委員会
(1)新規提案の商品について、検討決定します。
(2)新規の農畜水産物の産地や新規のメーカーを視察します。
(3)日常的な商品管理等に関する報告事項について確認します。

(二)商品おすすめ委員会
(1)生産者やメーカーとのつながりを深め、単協での利用普及に活かします。
(2)グリーンコープの「産直」や「商品」について知ることで、そのよさを実感し、オールグリーンコープで利用普及の取り組みをすすめます。
(3)組合員の声を活かした広報を通して利用普及をすすめます。

連合会第二十八期通常総会で選任された役員

理事全体区
- 金田　幸代　連合会商品おすすめ委員長
- 中本　瑞樹　共同体福祉委員長

理事地域区
- 篠原 佳奈子　おおさか理事長
- 亀崎　恵理子　かごしま理事長
- 貫里　恵　ひろしま副理事長
- 馬渕　早苗　くまもと副理事長

監事
- 河元　圭子　ひろしま
- 溝口　真理　ふくおか
- 萩原　潤　おおいた

退任した役員

退任理事
- 山田　由美　おおさか
- 下本地　紀子　かごしま
- 反岡　佐千代　ひろしま
- 久木田　勝子　くまもと
- 坂本　真由美　連合会
- 佐々木　美由紀　共同体
- 宮﨑　美幸　共同体
- 宮﨑　正義　ふくおか

退任監事
- 下飛田　智子　くまもと
- 別所　理恵子　かごしま
- 大田　玲一　ふくおか

生協名は一部省略しました

連合会第二十八期通常総会議案採決の結果

代議員数209人（議長を除く）	賛成	反対	保留
第一号議案 2019年度活動報告承認の件	209	0	0
第二号議案 2019年度決算報告承認の件	209	0	0
第三号議案 2020年度活動方針決定の件	209	0	0
第四号議案 2020年度事業計画･予算決定の件	209	0	0
第五号議案 役員選挙規約変更の件	209	0	0
第六号議案 役員補充･選任の件	209	0	0
第七号議案 役員報酬決定の件	209	0	0
第八号議案 議案決議効力発生の件	209	0	0

2020.7.3
グリーンコープ
生活協同組合連合会
第二十八期通常総会 委員会報告

連合会 商品検討委員会

組合員が本当に欲しいものをとことん追求するため、真摯に検討を重ねました


煮豆類のコンペの様子

2019年度は、新しいせっけん類の開発に向けて、シャンプー・リンス、洗濯用粉せっけん、洗濯用固形せっけん、歯みがき剤、おふろ用香料入り固形せっけんなど数多くの検討を行いました。

「せっけんシャンプー・リンスtsuyaシリーズ」は、モニター展開を行い、約1年をかけて開発した商品です。成分にこだわり、プラスチック容器の削減を追求した商品であることを、自信を持って伝えていきます。

化粧品については、使用感や色味など順を追って丁寧に検討を行い、「ゑエクラボーテUVシリーズ」など、多くの組合員におすすめできる商品を登場させることができました。

商品検討委員会によるグリーンコープ連合設立30周年を記念した商品開発では、組合員からの要望が多かった「ゑ産直びん牛乳の液だれ防止キャップ」と「高齢化に向けた商品（やわらかいもの）」を開発しました。高齢の方はもちろん、幅広い年齢層の方が利用できるように、味や量にもこだわりました。

委員会では、組合員が本当に欲しいものをとことん追求していくために、妥協のない意見交換を行っています。母親の目線で「安心・安全な商品を子どもに食べさせたい」という思いで検討しています。

これからも食べもの運動をさらに力強く広げ、多くの組合員に永く愛される商品を生み出していくために、委員一人ひとりの感性を活かし、とにかく元気に楽しく活動していきます。

共同体 組織委員会

「せっけん」「環境」「平和」「アジアとの連帯」の取り組みについて各生協の様子を共有し、活動に活かしました


10月の脱原発学習会では、チェルノブイリ原発事故の発生からこれまでの支援の様子、これからの福島への支援について学びました

組織委員会では、「せっけん」「環境」「平和」「アジアとの連帯」の運動課題について各生協の様子を共有し、それぞれの活動に活かせるように引き寄せ、深め、意見交換を大切にすすめました。

せっけんについては年間をとおして取り組み、年度当初に開催した学習会では、「有害化学物質削減ネットワーク」より講師を迎え、せっけんを伝える語り口を得ることができました。年に2回の「シャボン玉月間」では、カタログGREENでおすすめのせっけん商品をアピールしました。

今年度は、新しい4Rチラシを作成し、4※R運動を分かりやすく伝えるために活用しました。グリーンコープの商品を使うこと、また、使った後きれいに洗って回収に出すことが環境を守ることに直結していることを伝えていきます。

委員会で内容を検討した脱原発コラムを、毎号の共生の時代に掲載しています。分かりやすい言葉で組合員に伝わるように意見交換を重ね、丁寧に検討することは、委員にとっても学びとなりました。年度途中より、「脱原発運動」に加え「グリーンコープでんき」の利用普及なども組織委員会の課題となり、情報の媒介をしたり意見や感想を出し合いました。

共生・平和長崎自転車隊の取り組みでは、「平和のつどい」について提案から当日の役割まで委員会で主体的に担いました。

2020年度も、〝生命（いのち）〟を大切に考え、一つひとつの課題について活発な意見交換を重ね、各生協が意欲的に取り組んでいけるようにすすめていきます。

※Refuse（断る）、Reduce（減らす）、Reuse（再使用）、Recycle（再生利用）の4つの頭文字（R）をとった運動のこと

連合会 商品おすすめ委員会

視察や学習会で学んだことを、組合員に広くアピールし、利用普及をすすめました


大山食品(株)では、良質で豊富な地下水と玄米と麹を使った加熱殺菌していない貴重な生の酢や、原料を産直赤とんぼ米に特化した特長のある酢を作る様子を視察

2019年度は、産直びん牛乳をはじめ、産直青果・米、化粧品など、さまざまな商品について学習し、カタログGREENでアピールするなど、利用普及をすすめました。また、視察や学習会で学んだことを活かし、共生の時代の「グリーンコープのイチオシ！」コーナーに、「連合会商品おすすめ委員会のイチオシ！」として4回登場し、組合員に広くアピールしました。

産直びん牛乳ノンホモとパスチャライズの2品が2019優秀味覚賞をW受賞したことを受けて、改めて産直びん牛乳の良さや特長を確認するため、工場を視察しました。徹底した温度管理や衛生管理のもと、厳重に検査を行い製造されていました。私たち自慢の産直びん牛乳を飲み続けていけるように、日々利用普及をすすめていきたいと考え、牛乳の価格調査も行い、リーフレットを改訂しました。

北海道納豆用大豆生産者（鵡川（むかわ）農協）と北海道産小麦生産者の視察では、広大な土地で気候や風土に向き合いながら、できるだけ農薬を使わないように育てられている様子や、「作る側の責任として安心・安全は当たり前」との言葉を聞いて、改めて自信を持って利用をすすめていけると確信しました。貴重な国産大豆と国産小麦を作り続けてもらえるよう、これからも交流を続けていきたいと感じられる視察となりました。

利用普及をすすめる委員会として、年間を通して生産者やメーカーの視察など、さまざまな学習を行い、商品の知識と思いを深めました。これからもグリーンコープ運動をすすめ、多くの人に伝え、広げていきます。

共同体 福祉委員会

グリーンコープの福祉について理解を深め、各生協の様子を丁寧に報告、共有、意見交換しました


10月には、幼保連携型認定こども園「名島りすの森こども園」に視察研修に行きました

2019年度は、グリーンコープの福祉について理解を深め、各生協での取り組みを豊かにしていくために年間をとおしてさまざまな学習会や視察研修を開催しました。

また、各生協の福祉委員会や、全体で取り組んでいる福祉活動について報告、共有、意見交換を丁寧に行いました。地域組合員に向けた呼びかけチラシなどについても、具体的な内容を共有することで新たな発想やヒントを得ることができ、各生協の取り組みに活かしました。



落水洋介さんを講師に招き、人と人が支え合う大切さについて学びました

学習会では、社会福祉法人グリーンコープの理念や現状、これからの実践についてさらに詳しく学びました。また、参加対象を各生協の組合員や共同体理事会に広げた福祉拡大学習会を3回開催しました。

10月には、4月に開園した社会福祉法人グリーンコープ 幼保連携型認定こども園「名島りすの森こども園」を中心に、周辺に広がるグリーンコープのいろいろな施設を視察しました。それぞれの施設が互いに連携し、さらに地域とも連携を強くしていこうとしている様子を知ることで、グリーンコープがめざす「誰もが住みなれた街で安心して暮らせる地域づくり」について実感することができました。

「第二次『夢ヲかたちに』」ができ、さらに拡がっていくグリーンコープの地域福祉について、また、社会状況にあわせた知識や理解が深められるように、2020年度も学習会や視察研修を行っていきます。